



自分を越えた眼を Look Beyond Yourself

Raja

ラジェンドラ・K. サブー
 1991~1992年度 R I 会長

国際大会

1992. 6. 19 (金) 第226回例会

1. 点 鐘
2. ロータリーソング「手に手つないで」
3. 「四つのテスト」唱和
4. 食 事
5. 会長の時間
6. 幹事報告
7. 各委員会報告
8. 卓 話
9. 点 鐘

第225回例会記録 (1992. 6. 12)

会長の時間 濱田 松太郎

皆さん今日は、本日は第225回例会です。昨夜は宮崎県宮崎郡佐土原町の会長・幹事会がありまして、次のような議題が採り上げられました。

1. 宮崎中央RCと米国バージニアビーチ市のケープヘンリーRCとの友好の盟約調印式が、去る5月26日取り交わされました。
2. 「大淀川をきれいにしよう」と、市内の5RCが一丸になって運動を展開することになりました。
3. 例会中の途中退出者が依然あとを絶たない状態で、ロータリアンとしてのマナーが欠けているのではないかと、との意見が出されました。
4. その他、例会食費の値上げが提案されましたが否決されました。

ところで僕は、丁度昨年(6月12日)

より19日にかけて中国の東北の旅をしてきましたが、もっと早くお話し申し上げねばと思いつつ、大変遅くなりまして申し訳なく思っております。

この旅は、元ハイラルに駐屯しておりました72連隊の有志の方々によって組織され、全国各地から約40名参加して実施されました。

僕は元々ハルビン市で昭和16年から20年まで生活しましたが、当時のハルビン市は国際都市として、世界各地から人種の入り混った国際色豊かな街でした。今の家内とのロマンスの芽生えた若き日の思い出が走馬灯のように脳裏から離れず、忘れようとして忘れられなくて、時々夢を見ることさえありましたので、いつか機会があったらもう一度、まだ足腰の衰えないうちに、この目で確かめたい一念でありました。

6月12日、福岡国際空港第3ターミナルに集合、中国機に搭乗し約1時間、東支那海を一旦またぎして1時間半で大連空港着、ここで一旦飛行機を降りまして、入国手続きをしました。再搭乗後約5時間で北京空港着、空港から北京市内までの道路両側には街路樹が見事でした。友誼賓館泊。翌13日バスに乗り、田と元の交換(当時1円は37元)をして北京空港へ、空路夢にまで見た憧れのハルビンへ着きました。

ハルビンは、現在400万の人口を擁し、東北における文化・教育・交通の要所として、また、政治・経済の中心として成長を続けている街です。以前は世界各国から移住した国際色豊

かな街でしたが、現在は全く外国人を見掛けることはできませんでした。キタエスカイヤ街・スングアリー等を見学しましたが、あいにく夕方から大雨に災いされ、外に出られませんで残念でした。夜行列車に乗り（時間は正確で9:49分発）、一路北溝へ、朝方興安嶺を越え、広漠たる大草原を一望におさめ、ところどころに乳牛・綿羊・馬などの放牧を見ながら、夕方無事満洲里に到着しました。市内を一巡してホテル泊。翌15日はバスで国境監視所等を見学しましたが、ソ連との距離は目と鼻の先で、街並もかいま見ることができました。戦時中に勤務に就かれた兵隊さんたちの苦勞がしみじみ偲ばれました。それより国境を下れば、ジャイノール、石炭の露天掘り、グライ湖畔、大自然を相手に大草原を中心に悠々自適で牛・綿羊・馬などを追い生活している蒙古民族のたくましい生活の場であります包（バオ）を見学しました。（僕も若い頃には、こんな生活がしてみたいな、とあこがれたものでした。）

明けて16日、早朝の汽車で一路ハイラルへ。それより、当旅行団の目的地をそれぞれ視察したのですが、昔居たところが、50年も経た今日ではなかなか確認するのに手間どりました。終戦前のソ連国境の関東軍の軍備は、正にもぬけの殻だったようで、大砲が1門しかなかったといえますから、いかに関東軍が南方に戦力を割っていたかということが一目瞭然です。

ハイラルでは、現在2名の日本人がおられてホテルまで会いにこられました。今夏日本へ帰国したけれども、どうしても夫が許してくれないなど、可愛そうでした。みんなで金一封を差上げましたところ、感激されて帰って行かれました。午後ハイラル空港から一路北京へ、専用バスで友誼ホテルに着き1泊。翌18日は朝から萬里の長城へ向いました。途中の中国の朝の風景ですが、自転車乗りの若者が多いのにびっくりしました。これならCO2の公害もないはずだと思いました。

現在中国では、人口の増加に頭を悩ましてい

るということで、いかにすれば人口を減らすことができるかを真剣に検討されているそうです。

萬里の長城は、山海関から西はゴビ砂漠の中まで6000km、今から2500年前に秦の始皇帝が北方の遊牧民族の侵入を防ぐため造ったもので、月から見える唯一の建築物ともいわれています。次に故宮に行きました。明、清時代は紫禁城と呼ばれていましたが、明の永楽帝により1406~1420年にかけて20万人の労働力を投じて建設され、その部屋数は実に9999室、所蔵品は100万点、一つ一つ隅から隅まで見て廻っていたら24年間ぐらいかかると添乗員も言われたが、正にそのとおりでした。時間の都合もあり、はぐれないように行動を共にしたので、残念ながら微に入り細に亘って見学することは不可能でしたが、とにかく、日本の文化は全て中国が源であるのだなあと肌で実感しました。たとえば、日光の東照宮等の建物は全く同じに思われました。

次は、中国のシンボルでもある天安門に行きました。中央には毛沢東の肖像画、左右に「中華人民共和国萬歳」と「世界人民大団結萬歳」のスローガンが掲げられ、故宮の入口に当り、その広場は後楽園球場の10倍の広さです。

ここで一昨年でしたが痛ましい、血なまぐさい事件が発生したことは皆様よくご記憶のことと思います。

翌日北京空港を発ち、途中大連空港で出国手続きをとり、7泊8日の旅を無事終了し、午後2時福岡空港に帰着しました。

中国旅行を終えての感想は次のようなことです。

- ①中国は広大な国である。こんな大きな国と戦って勝てるわけがないと思った。
- ②若い人が多く、活性化に輝いている。
- ③北京の街は、さすが国際都市だけにきれいだった。
- ④一衣帯水、主義主張は違うが、中国とは未永く仲良くしていただきたい。
- ⑤さすが文字の国（字が生きて見える）

幹事報告

鈴木正敏

1.例会変更通知

- ・日南RC 6月17日 18:30～
日南第一ホテル
- ・都城西RC 6月17日 18:30～
レストラン・和光
- ・日向RC 6月18日 19:00～
寿司源
- ・都城中央RC 6月18日 19:00～
霧島キャッスルホテル
- ・都城北RC 6月23日 18:30～
霧島キャッスルホテル
- ・小林RC 6月24日 18:30～
ガーデンベルズ小林
- ・日南中央RC 6月26日 18:30～
堺館
- ・都城RC 6月26日 18:30～
ナカムラ・デパート
- ・日南RC・日南中央RCは7月1日より例会場をホテルシーズン日南に変更
〒887 日南市園田3-11-1
TEL 0987-22-5151
- ・日向RCは例会日を7月1日より毎週月曜日に変更

2当クラブの6月19日の例会は職場訪問のため、弁当の用意が必要ですので欠席者は予めお知らせください。

出席報告 委員長代理 岩切正司

会 員 数 16名
欠 席 者 名 2名
H C 出 席 者 数 14名
出 席 率 87.5%
欠 席 者 名 井下・斉藤

ビ ジ タ -

高鍋RC 野崎 哲彦君・黒木 昭彦君
" 阿部 喬君

西都RC 浜砂 源弘君・池水 利博君
" 藪押 邦弘君・尾崎 公男君

会長エレクトより 岩切正司

昨夜、宮崎市郡6クラブ会長・幹事会に出席いたしました。佐土原クラブだけがまだ司会の役をしていないということですが、もうそろそろ一人前に幹事役を引き受けてもよいのではないかと思います。6クラブの中でミソでなく、対等の構成メンバーとしてこれからはやっていきたいと考えた次第です。

会員卓話 6/5 佐野保

5月になると思い出すのは、昭和21年5月14日に南方から復員し、広瀬駅に降りたのが5月15日であったことです。

当時は食糧もなく、広瀬駅は、遠く北九州あたりから米や干切などを買いに来る人々の乗降で大混雑をし、まるでヤミ市のような状態でした。それらの人を警官が取り締まるということが繰り返されていました。

私は、帰国はしたが、さて何をしたものかと考えました。以前に勤めていた東京の会社から復職するよう誘いがありました。辞退し、やがて農協に勤務することになりました。家には田も少しありましたので、食べるほどの米は穫れておりました。ある日、昼間帰宅してみますと、家の片隅にトランク（当時のステープル・ファイバー製）が1個置いてありました。開けてみますと布が2、3枚入っていました。恐らく、これを置いて行った人は、食糧との交換に来て、留守家だったため、置いて帰ったものと思われます。私は、その人の気持を考えると、何か胸に迫るものを感じ、40年後の今も、そのトランクを大事に保管しております。

さて、夫婦とも元気なうちに、海外旅行でもして置こうと思立ったのが5年ほど前で、第1回目は、宮日主催のヨーロッパ旅行への参加でした。その時の思い出を話してみます。

イスタンブールを観光したときのことですが、古い史蹟の中に新しい街がつけられている、それが実によく調和しているのに感動しました。

バスガイドが、「今日栄えているね、昔ここ栄えたよ。」と言ったことにも、かって繁栄したトルコへの誇りのようなもの、自信を感じさせられました。

次に、フランスやドイツに行ったとき、街がきれいでゴミがないのに驚きました。たばこの吸殻や空き缶も全く路上や空地に捨ててはありませぬ。どうしてだろうかと考えさせられた次第です。日本の現状はどうでしょうか。

今年パリに行ってみますと、去年よりさらに日本人観光客などが増えていました。どこに行っても日本人ばかりで、そんなにわが国は経済的に豊かなのかなと思いました。

日本人が多い関係もあってか、あまり言葉に不自由はしませんでした。

また、外国人はおおらかというのか、心が大きいという感じを受けました。

前にもお話ししましたが、アメリカ旅行のとき、船中で女性は家内と外国人と二人でした。

その外国人女性はすぐに家内の側に寄って来て、お互い言葉は殆ど通じないのに、楽しそうに身ぶり手ぶりで語り合っていました。

人間というものは、言葉は通じなくても、心というものがあれば通じ合うものだなと考えさせられた次第です。

ただ、外国人の中には、必ずしも善人ばかりはいないという実例も見聞しました。外国では日本人のパスポートは大変貴重がられているそうです。日本のパスポートを見れば、どこでもすぐにパスしてくれるようです。従って高値で売買されるということですから、パスポートの盗難には十分注意されるほうがよいと思います。要するに世界各国の人間には裏も表もあることを申し上げたいのですが、それに比し、ロータリアンは、常に「われわれの行為は、真実かどうか、みんなに公平か、好意と友情を深めるか、みんなのためになるかどうか」を反省し

ながら、奉仕の理想の実現に努力している人間であり、全世界共通の理念を持った友人であると思います。

私も、海外旅行では、ロータリー・バッジを着用しますが、それは何かを得しようというような気持ではなく、常にロータリアンとして恥ずかしくない行動をしようと自らを律するためです。

人間はどこに行っても、礼儀正しく、頭を下げる気持でいれば、自然と相手に心が通じるものであると確信します。

これが、私のささやかな海外旅行を通じての所感です。

会員卓話 (I) 郡司 武俊

本日は「自費診療と保険診療」について話します。

現在は、保険診療でできない診療はありません。すべてできます。ただし、この歯に金をかぶせてくれと言われても、それは保険診療外ですからできません。保険診療で規定された範囲内での金属をかぶせる場合のみ保険診療が適用されます。

例えば、交通事故で前歯が2本なくなったとします。2本続いてなくなったときはブリッジが保険で効きます。しかし、3本以上なくなった場合は保険が効きません。では、その場合はどうするかといいますと、入れ歯にするしかありません。ただ、保険内での入れ歯は2週間以内で歯をつくるようになっていますので、保険外で6ヶ月くらい経過を見ながらつくった入れ歯とは、外見は同じようでも、入れ歯の合い具合が違うのはやむを得ません。

入れ歯は技術料が主になりますので、保険内で1本1万円の入れ歯が、保険外では50万円になることもあり得ます。(本県では、同一の材料を使って、50万円もとる歯科医はまだ居りません。それだけのニーズがないからです。)(以下次号に掲載いたします。)